

支那の甲子年

当社が主催する「第4回毎日地球未来賞」の表彰式が8日、大阪本社（大阪市北区）であり、大月町柏島のNPO法人「黒潮実感センター」が大賞に続く「クボタ賞」を受賞しました。写真。県内からは第2回で、自然環境を復元する土木技術の普及に努めた「西日本科学技術研究所」の福留脩文さんが同じく「クボタ賞」を獲得して以来の栄誉です。

共生の里海

て「いる点を評価したい」とた
たえました。環境保護という
理念や行動は否定しようがな
いのですが、時には地元住民
の生活と折り合わないケース
が見受けられます。共存でき
る関係を築くことが肝心で、
同センターの場合、アオリイ
力の増殖産卵床設置という事
業を通じ、相互利益を実現さ
せてています。

今はアオリイカの里親制度を導入しており、里親となつて産卵木を購入すると、収穫されたイカが送られてくる仕組みです。新年度の里親募集が始まりました。問い合わせは同センター（電話0880・62・8022）です。

講演で神田さんは南海トラフ地震についても言及しました。柏島でも20級の津波が予想されま

好漁場でサンゴ群が広がり、1000種を超える豊富な魚類が泳ぐ柏島。海中景観の美しさや環境を残したいと、同センターは1998年4月に設立されました。センター長の神田優さん（高知大名員准教授、申戸大非常勤）

います。今回の毎日地球未来賞でも応募81団体の中から見事、賞を射止めました。

に設置しました。海に潜つて作業に携わるのはダイバーたち。子どもも手伝います。一緒になつて汗を流すことで信頼感を醸成します。さらに、人工の海の森にイカが産卵している様子の映像を見て

講師)が高知大の学生のころから、柏島にほれ込んで単身で移住。恩師らが越冬資金を貢献したといいます。手探りの1度でしたが、今は高知を代表するNPOです。これまでに農業環境省、高知県からも表彰さ

柏島にダイバーが訪れる一方、地元漁業者はアオリイカの収穫減少に悩んでいました。両者に摩擦が生じがちですが、収量アップを目指し、産卵場となる藻場を増やすため、間伐材の枝葉を海中

力の増殖産卵床設置という事業を通じ、相互利益を実現させています。

講演で神田さんは南海トラフ地震についても言及しました。柏島でも20メートル級の津波が予想されます。高台の避難所に荷物を抱えたお年寄りが逃げるのは困難と指摘し、「避難所にロッカーを置き、

合せは同センター（電話0888-230221）。

△はアオリイカの里親制度を導入しており、里親となつて産卵木を購入すると、収穫されたイカが送られてくる仕組みです。新年度の里親募集が始まりました。問い合わせ

いいえ。アーヴィングの見聞録

【高知支局長・伴丈伸治】